



福岡空港

臨床検査 日和 冬号

臨床検査日和 第30号 2022年 12月

新しい検査室のご紹介 ～病理検査室～

2021年4月1日、新築移転した白十字病院。前号に引き続き、今回も新しくなった検査室のご紹介をします。
今回は3Fフロアにある普段お目にかかれない**病理検査室**のご紹介です☆



“病理検査室”ってなにをるところなの？



検査や手術などで採取された組織や細胞を用いて標本を作成し、その標本を顕微鏡で観察して、どんな病気なのかを診断するところです！



より安全な作業環境となった新病理検査室

病理検査ではホルマリンや有機溶剤であるキシレンを使用します。
これらは液体ですが発散しやすく、空気中の濃度が高くなると人体へ影響を及ぼすことがあります。
有害物質に汚染されないように、新病院では新しい換気装置を取り入れるなど、適切な作業環境を保つようにしています。



▲換気装置内での切り出し作業中

ホルムアルデヒドばく露の低減対策を強化！



ホルマリンとは…ホルムアルデヒドの水溶液のことです。



ホルムアルデヒドにばく露された場合、くしゃみ、鼻水、咳やのどの痛み、めまいなどの症状があらわれます。
シックハウス症候群の原因物質のひとつでもあります。
また、発がん性物質であることも報告されています。
しかし、採取された組織や細胞は、そのままでは腐敗してしまうので**ホルマリン**という薬品で『固定』という工程が必要となり、病理検査室には欠かせない薬品です。

このホルマリンのばく露を少なくするために、新病院では**切り出し室**をつくり、ホルマリンを使用する場所と使用しない場所の区分けをしました！



▲切り出し室（手術などで採取された組織や臓器を標本作製のため必要な部位を切り分けます）



▲切り出し室内の換気装置

さらに、換気装置が新しくなり、対面式で切り出し作業が出来るため以前よりも使いやすくなり、作業中のホルマリンのばく露は低減されました。臓器保管庫も換気されており、切り出し室に入ってもホルマリンの臭いがあることはありません。

半年に一度の作業環境測定が義務付けられており（特定化学物質障害予防規則）、管理濃度 0.1ppm 以下という厳しい基準をクリアできています。

キシレンばく露の低減対策

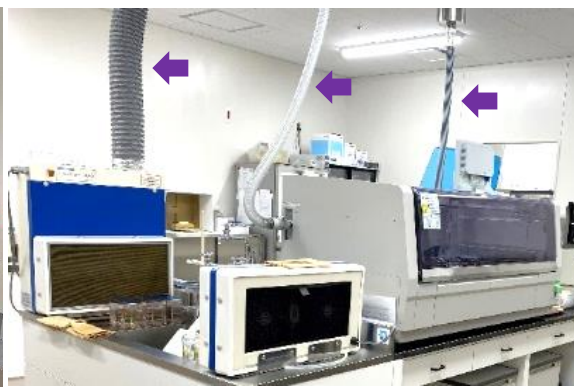
キシレンもホルマリン同様、大量に吸入すると人体に影響を及ぼす有機溶剤です。キシレンは、顕微鏡で組織を観察するためのプレパラート標本作製する工程で使用します。空気中の濃度を少なくするために、換気装置の設置や、各装置から直接排気ダクトをつなぐなどして、適切な作業環境を維持しています。



▲標本作製室



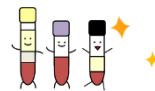
▲換気装置（標本作製室）



▲各装置からの排気ダクト（標本作製室）

NEW FACE ☆☆☆

臨床検査技術部に新しい仲間が増えました！



採血業務を担当する看護師の森です。
親切・丁寧を心掛け頑張ります。
よろしくお願いします。



経験年数：6年
好きな食べ物：チョコレート
特技：バドミントン

採血業務を担当する看護師の益富です。
声かけ、親切丁寧を心掛けて頑張っています。よろしくお願いします。



経験年数：30年
好きな食べ物：果物
特技：バスケットボール

検査技師のおしゃべり♪

昨年11月に第一子の男の子が生まれました。
今ではハイハイやつかまり立ちをするようになるまでに成長してくれました。
そんな彼が最近覚えたのが「バイバイ」。バイバイと手を振ると、振り返してくれます。
保育園へ送り届けて、先生に抱っこされた彼はいつも笑顔で
「バイバイ」してくれるのですが、親心的には嬉しい気持ちが半分と、
もう少し寂しがって泣いて欲しい気持ちが半分の、
やや複雑な気持ちで保育園を後にします。
日に日に成長していく彼は、次にどんな仕草を覚えて披露してくれるのか、
今からとても楽しみです。



生理検査室 林